

進路室より  「コミュニケーション能力」以上に  
見極められる資質とは…

進路室長 橋野 幸男

「日本経済新聞」火曜日の夕刊に、「就活のリアル」という連載コラムがあります(第2面・左下)。執筆者は、曾和利光さん(人材研究所代表、元・リクルート勤務)や、上田晶美さん(ハナマルキャリア総合研究所代表)など、当該分野で信頼を集めている方々です。皆さんにも「おススメ」のコーナーです。

その11月14日は曾和さんの担当で、タイトルは『採用で“コミュニケーション能力”偏重の謎。必要な資質は』。「企業は採用の際に“コミュニケーション能力”を重視しがち。だが、研究によると、この能力は入社後でも高めることができる。では、面接で本来、重視すべき資質とは何なのだろうか」という内容です。以下、要点を紹介します。

## — 企業の採用基準は基本的に「社内で育てにくい資質」を中心につくるべきである。～

実はこの「育てられる資質」なのに採用基準になっているものの一つが「コミュニケーション能力」だ。経団連がコロナ前まで実施していた新卒採用に関するアンケート調査で、企業が「選考時に重視する要素」は16年連続で1位がコミュニケーション能力であった。～

知能の研究で有名な心理学者レイモンド・キャッテルは、過去の学習経験を適用して得られる知能を「結晶性知能」と呼んだ。結晶性知能は20歳以降も上昇し、高齢になっても安定しているという。例えば「理解力」「洞察力」「想像力」などがあるが、その中に「言語能力」や「コミュニケーション能力」なども挙げられている。～

しかも、採用時に重視されるコミュニケーション能力とは、主に「面接」におけるそれだ。面接は、初対面の大人にいきなり人生を根掘り葉掘り聞かれて、短時間で評価されて可否をつけられるという極めて特異な場だ。そんな場で緊張したり、うまく自分をプレゼンできなかつたりすることがどうだとか。能力には「領域固有性」があり、面接ではダメでもふだんの場ではうまく話せる人はいくらでもいる。～

採用面接で評価しなくてはならない資質は、世の中の高業績者に共通して多い「やりきる力」「自己認知の正確さ」「当たり前とする水準の高さ」や、「自己動機付けの力」「目標達成力を自らが持

っていると認識できるか」など、他にたくさんある。それらを面接で伝える力がないというだけで、ダイヤモンドの原石を埋もれさせてはならない。＝

同趣旨のことは、「採用学」という分野を提唱・研究してきた服部泰宏准教授(神戸大学)のセミナーでも聴講したことがあります。また、求人依頼で来校した人事担当者で曾和さんの勉強会に参加しているという方からも、同社の採用プロセスに関する説明の中で話題になりました。

「コミュニケーション能力」は大事です。しかし、それ以上に、「仕事を推し進める力」として、上述下線部で掲げた能力こそ採用担当者はチェックし、同社の人材ニーズとマッチするか確認しようとしています。

「経験→思考特性→行動特性」のフレームで学生生活を振り返り、「仕事に役立つ」自分の「強み」と、その「根拠」(エピソード)を整理してください。



## メディック・ファーストエイド受講 3CP

令和5年11月14日(火)～11月15日(水)

子ども心理学科3年 中村 葵

今回受講したメディックファーストエイド講習は、「小児プログラム」で子どもから成人まで幅広い救急方法について学びました。

私が最も心に残った講座は、乳児から成人に合わせたCPR(心肺蘇生法)の応急方法です。成人の胸部圧迫の実技では、約5cm沈むように押す力が必要で力の入れ方が難しかったです。

また、子どもの胸部圧迫をする際、リズムを取るために「どんぐりころころ」を歌うことで一定のリズムを掴むことができ、それぞれグループで協力しながら取り組みました。

今回の体験から、身体の大きさや年齢に合わせて正確に行うことが大切だと知り、咄嗟の判断で自分が動けるのか難しさを実感しました。保育の現場に出たら、子どもたちの周りに潜む危険に日頃から意識を持ち、万が一のことが起きてしまった時に落ち着いて状況を判断しながら、少しでも良い対応ができるようにしたいと改めて強く思いました。

この経験を活かし、勇気を出して声を掛けたり、周囲に助けを求めたり、少しでも人を救う力になりたいと思います。



## 第4期実習での学び! 2TW・CW

令和5年10月16日(月)～11月11日(土)

実習テーマ「確実な知識・技術を基に、人間性豊かなコミュニケーションを図る」

## 「学生最後の実習で学べたこと」

介護福祉学科2年 松永 佳澄

この11月に第4期実習が終わり、卒業までのすべての実習が終わりました。自分の中で今回の実習が、今までで1番充実した実習になったと感じています。

1年次で行った第1期・第2期実習では、なかなか利用者様とも会話ができず、情報収集もまともにできませんでした。

2年次になってからの第3期は利用者様との関係作りや情報収集に時間がかかってしまい、介護計画の実施ができませんでした。

今回の実習は、これらの課題を学生最後の実習で克服することができたと思える実習となりました。もちろん施設の方々の、温かなご指導のおかげでもあります。情報収集での観察の視点が増えたり、行動力が身についたことを実感することができました。

まだまだ身につけなければならないこともありますが、今後の学校生活で少しでも改善できるよう努めていきたいです。

## 「自立支援について」

総合福祉学科2年 杉山 彪流

今回の実習では、自立支援について考えさせられました。今までは身体機能の維持向上のため、利用者様がやれることはすべてやっていたという考え方を持っていました。しかし、職員の方の介助を見学したり、介護職・リハビリ職の方々に自立支援について質問させていただくと、自分にはなかった視点を増やすことができました。ただ自立支援といっても、利用者様によって心身の状態・状況、在宅復帰を目指しているのか、今後も施設で生活していくのか等によって支援方法が違うということ学びました。また、自立支援のために行っていたことが、少し間違えば虐待や利用者様の意欲低下に繋がることも学びました。

来年は社会福祉士の勉強がさらに増えるので、もっと広い視野が必要になります。就職後、利用者様の目標を達成できるよう支援していくためにも、今後も専門知識・技術を身につけていきたいです。



## 保育実習 I (施設) での学び! 2CP

令和5年10月2日(月)～10月20日(金)

実習テーマ「児童福祉施設等の生活に参加し、児童等への理解を深めるとともに、児童福祉施設等の機能とそこでの保育士の職務について学ぶ」

子ども心理学科2年 白鳥 ひなた

私は今回、「児童発達支援センター・もも」に実習に行かせていただきました。「もも」にいる子どもたちは、一人ひとり抱えている障害が様々でした。「もも」では、言葉だけでは伝わりにくいため、「○」や「×」と書かれたカードを使い、ボードで1日の流れを表していました。また、だめなことはだめと伝える反面、できたら頭をなでて「できたね。丸だよ」などとその子に伝わるような工夫がされていました。

最初はコミュニケーションのとり方が分からず、少し戸惑いましたが、一人ひとりと丁寧に関わってみると、その子の好きなこと、得意なことが分かるようになり、とても楽しかったです。できないことが多いですが、スモールステップの繰り返しで、できたときがとても嬉しく、子どもの「また!」という場面に関わることができ、とてもいい経験ができました。

ももでの10日間は私にとってとても充実したものとなりました。この経験をこれからも生かしていきたいです。

## 12月の行事

- 1日(金) 1TW・CW第2期実習 ～12/9(土)
- 3TW第6期実習 ～12/23(土)
- 7日(木) オープンキャンパス 17:00～  
第3回ステップアップレッスン
- 9日(土) 社会人常識マナー検定JapanBasic
- 16日(土) オープンキャンパス 13:15～  
第4回ステップアップレッスン
- 21日(木) J検・B検CBT 16:30～
- 23日(土) 第3回入学選考
- 25日(月) PM防災訓練、大掃除
- 26日(火) 教職員大掃除  
第3回法人理事会(忘年会)
- 28日(木) 仕事納め(保育園ここまで)

## 臨地実習での学び! 2ORT

令和5年10月23日(月)～10月28日(土)

実習テーマ「医療人としてのあり方の基本を学び、患者様に対する思いやりのともなった態度を習得する」

視能訓練士学科2年 久保田 敦子

今回の実習では、疾患や病状に着目し、これまで学んだ事との繋がりを意識し取り組みました。

しかし、臨床現場では、今ある知識はほんの一部であると痛感するとともに、最も大切なのは患者一人ひとりに寄り添う姿勢、また技術向上のため多く経験を積むことであると感じました。

病状や患者様の希望、また普段どのように過ごされているかなど様々な視点から、その方にとって最善の提案をするのもまた、視能訓練士の役割であり、それには教科書通りでない経験が必要だと考えます。また、視能訓練士と患者様のやり取りを客観的に見ることができるのは学生である今だけです。

今回、見たもの、感じたものを忘れることなく、自分がなりたい視能訓練士像を見失うことのないよう引き続き勉学に励みたいと思います。

## 臨地実習での学び! 1ORT

令和5年10月16日(月)～10月21日(土)

実習テーマ「眼科外来の一日、一週間の流れを知り、視能訓練士としての果たすべき役割を理解する」

視能訓練士学科1年 小塩 凜花

私は今回の臨地実習で、患者様にどのような声かけや誘導を行っているのか学ぶことを目標にしました。

私が実習させていただいた病院は高齢者の患者様が多かったため、普段学内実習で同年代の人を検査するときには気付くことができない発見がありました。高齢者の方は歩く、立つ、座などの動作が大変だったり、耳が聞こえづらかったりします。そのため、検査説明や検査中の声かけは大きな声ではっきりと行っていました。

誘導面では患者様を注意深く見守ったり、支えたりしていました。また、視能訓練士同士で緊密な連携が取られていて、改めてコミュニケーション能力の重要性を感じました。

今回の臨地実習で学んだことを日頃から意識し、身に付けることができるように頑張ります。

## 企画広報室より



企画広報室 植田 和華

学生の皆さんには、今年もオープンキャンパスやクリエイティティブ部等で広報活動にご協力いただき、大変感謝しています。オープンキャンパス参加者も、在学生の皆さんから学校や授業の様子を直接聞くことができ、大変満足度が高いアンケート結果が得られています。近年では進路選択の時期も早期化していて、高校1、2年生もこの時期からどんどん参加してきます。「この学校に通いたい」「この先輩達と一緒に学びたい」と言ってもらえるよう、ぜひ皆さんの力を貸していただきたいと思います。

令和6年度入学生募集では、後期AO入学選考のエントリーを受付中です。本学で学べる分野の仕事を目指したい皆さんのご家族や友人、後輩等がいらっしゃいましたら、ぜひ勧めてください!一緒に中村学園をさらに盛り上げていきましょう!

## 後期AO入学選考

【A日程】

- ・エントリー期間: 11月13日(月)～12月18日(月)
- ・結果発送: 11月17日(金)～12月21日(木)

【B日程】

- ・エントリー期間: 令和6年1月9日(火)～2月17日(土)
- ・結果発送: 令和6年1月12日(金)～2月21日(水)

【C日程】

- ・エントリー期間: 令和6年2月26日(月)～3月23日(土)
- ・結果発送: 令和6年2月29日(木)～3月29日(金)

## 第3回入学選考

○入学選考日: 令和5年12月23日(土)

特待生選考、自己推薦選考、一般選考、社会人選考、留学生選考

○出願受付期間: ～12月22日(金) 15時必着

以降、最終令和6年3月29日(金)となります。

## オープンキャンパス

○12/7(木) 両校17:00～

○12/16(土) 両校13:15～

上記日程以外でも  
「個別でのオープンキャンパス」や  
「オンライン個別相談」を実施します。  
お気軽にご連絡ください。

毎月開催:  
○最終スペシャル  
令和6年3月3日(土)